

# 『分類語彙表形式による語彙分類表』 (増補版)について

国立国語研究所 中野 洋

## 1. はじめに

発表者が担当する研究課題「計算機による表記・表現に関する実験的研究」では、日本語処理に用いる機械辞書が重要である。これまで、国立国語研究所作成の各種語彙調査の結果である語彙表、漢字データベース、表記台帳が機械辞書として完成している。日本語のシソーラスである「分類語彙表」はこれまで増補中であつたが、ひとまず増補作業を終え、項目間の調整などに入る。その作業の台帳として、また、広く意見を求めるためにこれを印刷することにした。以下では、この内容について概略説明する。

なお、本研究課題の中では、次の8名がこの研究に参加した。

林 大・中野 洋・石井久雄・山崎誠・石井正彦・加藤安彦(以上、国立国語研究所) 宮島達夫(京都橘女子大学) 鶴岡昭夫(山口大学)

また、この研究課題以前にも、参考文献にあげた研究の成果を受け継いでいる。

## 2. 分類語彙表について

『分類語彙表』(国立国語研究所資料集6、林大担当)は、1964年に刊行して以来、現在29版を重ねる。研究所の刊行物の中ではもっとも発行部数が多い。これは一般の表現辞典としての利用が多いためだろうが、言語研究への利用も少なくない。宮島達夫・小沼悦(1992)および宮島(1994)の調査では、その数136を数える。これを見ると、語彙体系、作品の用語調査、文法、方言、日本語史、教育・発達、言語情報処理、類語群、意味分類と各分野の研究に用いられていることがわかる。特に、最近は言語情報処理への利用が盛んであり、強い要望によって1994年にそのフロッピー版を刊行した。

## 3. 分類語彙表の増補

解説によれば、収録語数はおよそ3万2千6百である(この数値は語彙表の延べ語数ではない)。これらの語は国立国語研究所報告21『現代雑誌九十種の用語用字』第一分冊の語彙表に掲げる使用率の高い語、さらに阪本一郎氏の『教育基本語彙』など日常生活でより基本的な役割をはたしている語である。これを研究に用い、あるいは言語処理に用いるには語が少ない。そこでこれを増補する。

### 3.1 増補の手順

増補作業は、林大を中心にこれまで十数名の研究者が参加し、以下の手順で進めている。  
方針決定 体系の大きな変更は行わない。

多義語を入れる。サ変語幹を用の類にも入れる。

候補語の選択 全体に語を増やす。複合語・新語・多義語・慣用句・オノマトペ・専門語等  
仮番号付け・段落および段落内の位置決定

項目内の調整 語の追加削除・新段落作成

白表紙版公開 2分冊計 660頁。広く意見を聞く。

項目間の調整 品詞分類間の調整ほか

全体の見直し 機会あるごとに行う

表記などの統一 ただし表記の基準を示すものではない。

公刊

### 3.2 現在の語数分布

科研費を受けて作成した「『分類語彙表』形式による語彙分類表」(中野 1989、下表白表紙)の掲載延べ語数は5万2千弱だった。次の科研費「言語研究におけるシリウスの利用法」(平成元～2年度)では60,784語を得た。国語研内の課題「分類語彙表の増補」を経て、一昨年で82,828語(下表671本)、現在84,754語(下表増補版)が増補の候補となっている。

分類	掲載延べ語数				増補率		
	元版(FD)	白表紙	671本	増補版	白表紙	671本	増補版
体の類	26,984	40,227	54,591	54,230	1.49	2.02	2.01
抽象的關係	6,780	9,026	12,663	12,166	1.33	1.87	1.79
人間活動主体	3,272	5,020	7,127	7,105	1.53	2.18	2.17
人間活動	9,920	14,708	19,247	19,513	1.48	1.94	1.97
生産物	3,277	5,656	7,960	7,988	1.73	2.43	2.44
自然	3,735	5,817	7,594	7,458	1.56	2.03	2.00
用の類	4,779	5,358	18,710	20,222	1.12	3.91	4.23
抽象的關係	2,153	2,380	8,145	8,023	1.11	3.78	3.73
人間活動	2,158	2,441	9,265	10,801	1.13	4.29	5.01
自然	468	537	1,300	1,398	1.15	2.78	2.99
相の類	4,653	6,147	8,928	9,575	1.32	1.92	2.06
抽象的關係	2,212	2,899	4,316	4,342	1.31	1.95	1.96
人間活動	1,788	2,515	3,571	4,129	1.41	2.00	2.31
自然	653	733	1,041	1,104	1.12	1.59	1.69
その他類	364	390	599	727	1.07	1.65	2.00
抽象的關係	99	105	127	184	1.06	1.28	1.86
人間活動	265	285	472	543	1.08	1.78	2.05
総計	36,780	52,122	82,828	84,754	1.42	2.25	2.30

この表の語数は、各項目に配置された語例の延べ語数である。多義語はいくつもの項目

に配置されているからそれぞれ数えられている。本表では、ある表記の語がひとつの項目だけに配置されたのは 56,845 語である。複数の項目に配置された語の項目数と語数は、それぞれ 2-9734、3-1953、4-419、5-111、6-40、7-11、8-8、9-2、11-4、12-1、16-1 である。ちなみに 16 の項目に配置された語は「分」である。

さて、表の増補率をみれば、元の版からどれほど増補されたかがわかる。全体では白表紙が 1.42 倍、671 本が 2.25 倍、増補版が 2.30 倍である。

品詞別に見れば、用の類が 4.23 倍ともっとも多くなっている。相の類、体の類はそれぞれ 2.06、2.01 倍である。用の類が多い理由は、「サ変語幹+する」の形の語を入れたからである。

項目別に見れば、最も増補率の大きい項目は 2.3500 の「交わり」で 18.8 倍である。紙面の関係で 7.1 倍に増補された「見せる」を示す。なお表中の / は本文での行替えを示す。

F D 版 2.3091 見せる

- 1 \*見せる \*示す \*指す 指し示す \*指さす / 見せかける 見せつける 見せびらかす  
ひけらかす
- 2 \*隠す くらます

増補版 2.3093 見せる

- 1 見せる / お目に掛ける ご覧に入れる 上覧に供する
- A あらわす 表す / ○明らかにする / なる / 示す 表示する  
書き示す 表示する 図示する / 呈示する 提示する 提出する  
公示する 開示する / ○公にする / なる / 告示する 内示する  
明示する 顕示する 暗示する / 示唆する 啓示する
- 2 指す 指し示す 指示する / 指差す 指定する /
- 3 見せ掛ける よそおう ふりをする[3420-5] / 見せ付ける 見せびらかす  
誇示する ひけらかす / 示威する / ○万丈の気(気炎)を吐く  
のぞかせる ちらつかせる / ○片鱗を示す /
- A 人目にさらす さらけ出す[1210-8] / ○白日のもとにさらす / さらされる  
○目を喜ばす /
- B 陳列する 展示する 展覧する 展観する / 出品する
- 4 標示する 標榜する /
- 5 例示する 挙げる(例を~) / 枚挙する 列挙する
- 6 掲げる 掲示する 掲出する / 上掲する 前掲する 別掲する
- 7 隠す 覆い隠す 押し隠す 隠蔽する / ひた隠す 包み隠す 忍ばせる  
秘める 隠し立てする 秘密を守る / 秘し隠す 秘匿する 隠匿する かくまう  
くらます 目をくらます / ○目をかすめる 人目を盗む  
隠れる[1210 3] 跡をくらます / ○人目を忍ぶ / 包む / はばかる

## A サインする 信号する

ひとつの項目にはいる語が多くなると語を検索しにくくなるので、元にはなかった段落をもうけた。さらには、全体をまとめるための上位項目を作ったものや、新たに下位項目を作ったものもある。また、別の項目に統合することにより空項目もある。現在、空項目が 11、新たに作った項目が 30 である。

4.

現在、増補作業は、体、用、相、その他の類間の調整という新たな段階に入っている。

## 参考文献

1. 『「分類語彙表」形式による語彙分類表』(文部省科学研究費補助金特定研究(1)  
「言語データの収集と処理の研究」、野村雅昭・中野洋、1989.3)
2. 『日本語シソーラス・データベースの構築とその利用法の研究』(平成5年度文部省  
科学研究費補助金(一般研究(B))研究成果報告書第1、2分冊、1994.4)
3. 国立国語研究所『分類語彙表 [フロッピー版]』  
(国立国語研究所言語処理データ集5、1994.3)
4. 国立国語研究所『中学校・高校教科書の語彙調査 [フロッピー版]』  
(国立国語研究所言語処理データ集6、1994.3)
5. 中野洋「分類語彙表の増補とその利用」(言語処理学会第一回年次大会発表論文集  
1995.3.30)
6. 『分類語彙表形式による語彙分類表(増補版)』(文部省科学研究費(創成的基礎研究費)  
「国際社会における日本語についての総合的研究」第3班中野洋、1996.3.15 予定)